

3.2.3. アンケート調査票

アンケート調査票は、以下のとおりである。

調査票のご確認にあたって
 (各質問上の水色の箇所は、その質問に関する設定が表示されます)

●**画面分割**
→画面が分割される箇所に「ここで改ページ」という線が表示されます。

●**セレクト条件(回答者指定機能)**
設定の内容は、以下の4種類で表記されます。

表記例

・【Q1】で1-3と答えた方 →Q1で選択肢「1,2,3」の1つ以上を選んだ回答者へのみ、「質問」が表示されます。
 ・Q1項目【1】で1と答えた方 →Q1の項目の1番目で選択肢「1」を選んだ回答者へのみ、「質問」が表示されます。
 ・項目【1】：【Q1】で1と答えた方 →Q1で選択肢「1」を選んだ回答者へのみ、「項目の1番目」が表示されます。
 ・1_FA：【Q1】で1と答えた方 →Q1で選択肢「1」を選んだ回答者へのみ、「自由解答欄の1番目」が表示されます。

●**排他選択肢**
→対象の選択肢と、他の選択肢が同時に選択された場合、回答者にエラーを表示します。

●**設定の記載が無い画面をごらんになる際は、こちらをクリックしてください。**

医療機器に対する医師ニーズ調査(筋骨格系及び結合組織)

臨床現場では、医療サービスの質と患者QOLの向上に資する医療機器の開発が強く求められています。より良い医療機器の開発のためには、医療従事者のニーズを把握することが不可欠です。そこで、本調査は、筋骨格系及び結合組織の疾患をご専門とされる医師を対象に、既存の医療機器・材料の課題や新規開発のご要望等をあうかがいし、調査結果を広く情報提供することで、今後の医療機器開発に資することを目的としています。

- ・調査主催：財団法人医療機器センター
- ・調査委託先：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
担当 柏野聡彦(sstrategy@murc.jp)
- ・利用目的：ホームページで公表(財団法人医療機器センターが運用するデータベース)
<http://jaame.majestic.jp/mimtdb/>

(知的財産の取り扱いに関する留意事項)
 調査結果はデータベースで公表いたします。知的財産につきましては本データベースでは保護できません。また、データベースに登録することで優先権を主張することもできません。自己の知的財産権の侵害が懸念される情報につきましては提供をお控えくださいますようお願いいたします。

下記アンケートにご協力をお願いします。
 【注】お一人様1回までの回答をお願いします。

● ①必須入力

質問数は8問です。多忙な診療の中、誠に恐縮ですが、よろしくお願いたします。

Q1 先生のご専門にもっとも近い部位をご教示ください。(最もあてはまるもの1つを選択してください)
 【必須入力】

- 1. 頰椎
- 2. 胸椎
- 3. 腰椎
- 4. 肩
- 5. 肘
- 6. 手・手首(肩、肘をのぞく)
- 7. 膝関節
- 8. 股関節
- 9. 足・足首(膝関節、股関節をのぞく)

●●●●●●●●●●●●●●●●●●●● ●< ここ改ページ ●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●

● ①必須入力

図3.2-8 医師ニーズアンケート調査票(1/4)

Q2 先生のご専門分野にもっとも近い部分に関して、
先生が過去5年以内に実施された手技(治療)をご教示ください。(あてはまるものすべてを選択してください)
【必須入力】

骨髄 【挿植】【挿植】【置換】

- 1 骨髄固定術
- 2 骨髄移植術
- 3 椎弓形成術・椎体形成術
- 4 換領下手術

上肢 【肩】【肘】【手・手首】

- 5 人工関節置換術・再置換術
- 6 初発・腱・腱板・関節包手術(腱鞘切開含む)
- 7 神経修復・神経移植・神経圧縮術(手根管・肘部管開放含む)
- 8 (偽関節・変形性治療・骨長調整手術)
- 9 換領下手術

下肢 【股関節】【膝関節】【足・足首】

- 10 人工関節置換術・再置換術、人工骨挿入術
- 11 人工膝関節置換術・再置換術
- 12 半月板切除術・縫合術
- 13 神経修復・神経移植・神経圧縮術(足根管開放含む)
- 14 初発・腱手術
- 15 (偽関節・変形性治療・骨長調整手術)
- 16 換領下手術

..... ✂ ここまで改ページ

- セレクト条件 項目【1】: 【Q2】で1と答えた方
- セレクト条件 項目【2】: 【Q2】で2と答えた方
- セレクト条件 項目【3】: 【Q2】で3と答えた方
- セレクト条件 項目【4】: 【Q2】で4と答えた方
- セレクト条件 項目【5】: 【Q2】で5と答えた方
- セレクト条件 項目【6】: 【Q2】で6と答えた方
- セレクト条件 項目【7】: 【Q2】で7と答えた方
- セレクト条件 項目【8】: 【Q2】で8と答えた方
- セレクト条件 項目【9】: 【Q2】で9と答えた方
- セレクト条件 項目【10】: 【Q2】で10と答えた方
- セレクト条件 項目【11】: 【Q2】で11と答えた方
- セレクト条件 項目【12】: 【Q2】で12と答えた方
- セレクト条件 項目【13】: 【Q2】で13と答えた方
- セレクト条件 項目【14】: 【Q2】で14と答えた方
- セレクト条件 項目【15】: 【Q2】で15と答えた方
- セレクト条件 項目【16】: 【Q2】で16と答えた方
- ①必須入力(全項目)
- 回答多数:【Q1】

Q3 先生のご専門分野【Q1の選択内容】において、
先生が以下の手技(治療)を1年間に実施する件数をそれぞれご教示ください。
【必須入力】

	年間実施件数				
	1 500例以上	2 300~499例	3 100~299例	4 50~99例	5 50例未満
※骨髄【挿植】【挿植】【置換】>					
1. 骨髄固定術	→	○	○	○	○
2. 骨髄移植術	→	○	○	○	○
3. 椎弓形成術・椎体形成術	→	○	○	○	○
4. 換領下手術	→	○	○	○	○
※上肢【肩】【肘】【手・手首】>					
6. 人工関節置換術・再置換術	→	○	○	○	○
6. 初発・腱・腱板・関節包手術(腱鞘切開含む)	→	○	○	○	○
7. 神経修復・神経移植・神経圧縮術(手根管・肘部管開放含む)	→	○	○	○	○
8. (偽関節・変形性治療・骨長調整手術)	→	○	○	○	○
9. 換領下手術	→	○	○	○	○
※下肢【股関節】【膝関節】【足・足首】>					
10. 人工関節置換術・再置換術、人工骨挿入術	→	○	○	○	○
11. 人工膝関節置換術・再置換術	→	○	○	○	○
12. 半月板切除術・縫合術	→	○	○	○	○
13. 神経修復・神経移植・神経圧縮術(足根管開放含む)	→	○	○	○	○
14. 初発・腱手術	→	○	○	○	○
15. (偽関節・変形性治療・骨長調整手術)	→	○	○	○	○
16. 換領下手術	→	○	○	○	○

..... ✂ ここまで改ページ

- セレクト条件 1_F.A: 【Q2】で1と答えた方
- セレクト条件 2_F.A: 【Q2】で2と答えた方
- セレクト条件 3_F.A: 【Q2】で3と答えた方
- セレクト条件 4_F.A: 【Q2】で4と答えた方
- セレクト条件 5_F.A: 【Q2】で5と答えた方
- セレクト条件 6_F.A: 【Q2】で6と答えた方
- セレクト条件 7_F.A: 【Q2】で7と答えた方
- セレクト条件 8_F.A: 【Q2】で8と答えた方
- セレクト条件 9_F.A: 【Q2】で9と答えた方
- セレクト条件 10_F.A: 【Q2】で10と答えた方
- セレクト条件 11_F.A: 【Q2】で11と答えた方
- セレクト条件 12_F.A: 【Q2】で12と答えた方
- セレクト条件 13_F.A: 【Q2】で13と答えた方
- セレクト条件 14_F.A: 【Q2】で14と答えた方
- セレクト条件 15_F.A: 【Q2】で15と答えた方
- セレクト条件 16_F.A: 【Q2】で16と答えた方
- ①必須とする(全てのF.A欄)

図3. 2-9 医師ニーズアンケート調査票 (2 / 4)

Q4 以下の手技(治療)をする際に、先生ご自身が使用されている医療機器・材料のうち、技術的改良が必要と強く感じられておられるものがありましたら、改良が期待される点とその理由をご教示ください。
※ホームページ上で情報提供をさせていただく関係上、現在の手技や使用されている機器・材料につきましても先生の無理のない範囲で、詳しくにご記入いただけますと幸いです。

現在ご使用されている医療機器・材料のうち、改良が期待される点
(現在の手技、使用されている機器・材料の状況、改良点などを詳しくにご記入ください)
【必須入力】

脊椎固定術
⇒

脊椎除圧術
⇒

椎弓形成術・椎体形成術
⇒

鏡視下手術
⇒

人工関節置換術・両置換術
⇒

韧带・腱板・関節包手術(関節切開含む)
⇒

神経修復・神経移植・神経除圧術(手根管・肘部管開放含む)
⇒

偽関節・変形性治療・骨長調整手術
⇒

鏡視下手術
⇒

人工股関節置換術・両置換術、人工骨頭挿入術
⇒

人工肩関節置換術・両置換術
⇒

半月板切除術・縫合術
⇒

神経修復・神経移植・神経除圧術(足根管開放含む)
⇒

韧带・腱手術
⇒

偽関節・変形性治療・骨長調整手術
⇒

鏡視下手術
⇒

.....< ここ改ページ >.....

①必須入力
②回答文字数制限:【1000】(文字以内)

Q5 現在の臨床現場には存在しないが、まったく新しい治療を実現するような“新規の医療機器・材料”のアイデアがございましたら、“夢”のような内容も含めて、ご教示ください。
※ホームページ上で情報提供をさせていただく関係上、医療機器のイメージ(対象部位・疾患・機能・効果等)を先生の無理のない範囲で詳しく、ご記入いただけますと幸いです。
【必須入力】

.....

※1000文字以内でご記入ください。

.....< ここ改ページ >.....

①必須入力
②回答文字数制限:【1000】(文字以内)

図3.2-10 医師ニーズアンケート調査票 (3 / 4)

Q6 今後のわが国における低侵襲医療機器の開発と普及について、ご意見・ご意見を教えてください。
※再生医療やロボット手術など、研究開発や普及の推進が期待されるもの
※国、大学・研究機関、医療機関、民間企業、患者はどうかあるべきか
【 必須入力 】

※1000文字以内で記入ください。

..... ✂ ここまで改ページ

• ①必須入力

Q7 先生の主たる勤務先の種別を教えてください。(あてはまるもの1つを選択)
【 必須入力 】

- 1. 大学病院
- 2. 公的病院
- 3. 一般病院
- 4. 診療所

..... ✂ ここまで改ページ

• ①必須入力

Q8 先生の主たる勤務先の病床数を教えてください。(あてはまるもの1つを選択)
【 必須入力 】

- 1. 600床以上
- 2. 300床以上600床未満
- 3. 100床以上300床未満
- 4. 100床未満

図3.2-11 医師ニーズアンケート調査票 (4 / 4)

3.3. 患者ニーズアンケート調査

3.3.1. 調査概要

3.3.1.1. 調査目的

筋骨格系疾患の罹患歴のある患者を対象に、検査・診断時および手術・処置時の不安・不快について調査を行うことにより、既存の医療機器の課題を明らかにし、今後の医療機器の開発に役立てることを目的とする。

3.3.1.2. 調査対象

本調査の調査対象は、インターネット調査会社の調査モニターのうち骨や関節の病気やケガで手術を受けた経験のある15歳以上の患者である。

3.3.1.3. 調査方法

本調査では、インターネット上でのアンケート調査を行った。

筋骨格系疾患の罹患歴のある15歳以上のモニターに対して、表3.3-1の割合でアンケート調査の依頼メールを配信した。調査のタイトルに「骨や関節の病気やケガで手術を受けた方が対象です」と明記し、回収件数が500名に達した時点で回答を締め切った。

表3.3-1 調査対象疾患と配信割合

調査対象疾患		配信割合	調査対象疾患		配信割合
頸肩腕痛	過去通院	14.0%	慢性関節リウマチ	過去通院	2.0%
	現在通院中	14.0%		現在通院中	2.0%
腰痛	過去通院	10.0%	関節炎	過去通院	2.0%
	現在通院中	10.0%		現在通院中	2.0%
椎間板ヘルニア	過去通院	10.0%	骨粗鬆症	過去通院	2.0%
	現在通院中	10.0%		現在通院中	2.0%
変形性関節症	過去通院	10.0%			100.0%
	現在通院中	10.0%			

3.3.1.4. アンケート調査の実施期間

2009年12月18日～2009年12月24日

3.3.1.5. 総回答件数

総回答数は、500件であった。

3.3.1.6. 調査項目

本調査の調査項目はに示すとおりである。

表3.3-2 調査項目

区 分	調査項目
病歴・治療歴	(1) 回答者の病歴・治療歴
	(2) 現在の通院状況
検 査・診 断	(3) 検査・診断時の不安・不快
	(4) 検査・診断時の不安・不快の内容
手 術・処 置	(5) 受けた手術・処置の種類
	(6) 手術・処置時の不安・不快
	(7) 手術・処置時の不安・不快の内容
	(8) 希望したにもかかわらず受けられなかった手術・処置の有無
	(9) 希望したにもかかわらず受けられなかった手術・処置の内容

3.3.2. アンケート調査結果

3.3.2.1. 回答者の基本情報

(1) 回答者の性別

回答者の性別は、全体でみると、「男性」が61.8%（309件）、「女性」が38.2%（191件）である。

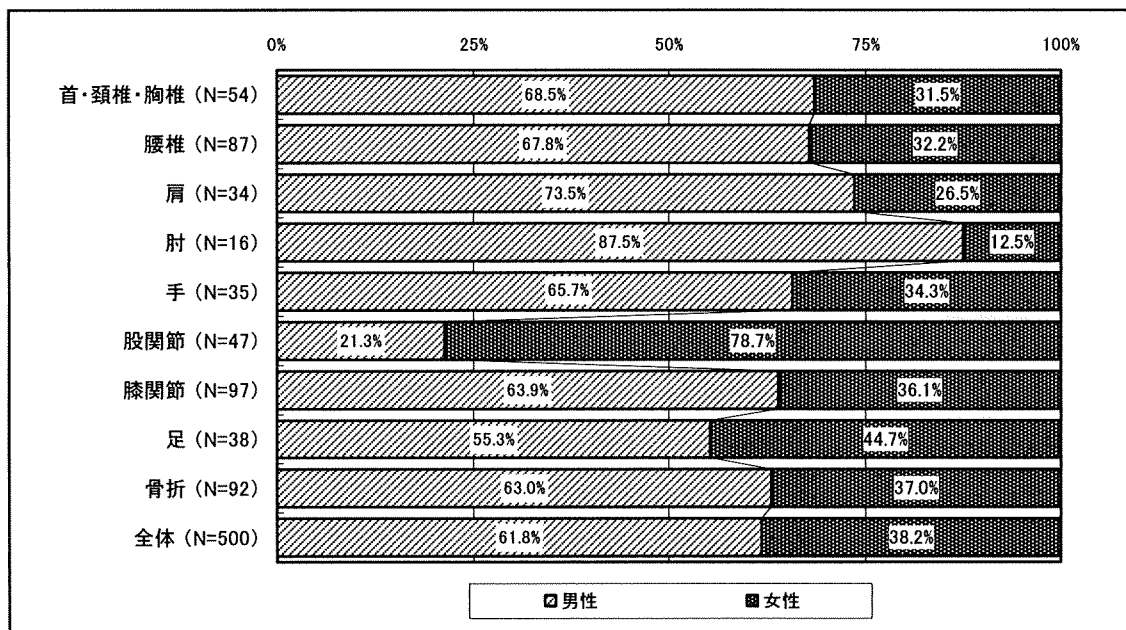


図3.3-1 回答者の性別

表3.3-3 回答者の性別

疾患部位	男性		女性		全体	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
首・頸椎・胸椎	37	68.5%	17	31.5%	54	100.0%
腰椎	59	67.8%	28	32.2%	87	100.0%
肩	25	73.5%	9	26.5%	34	100.0%
肘	14	87.5%	2	12.5%	16	100.0%
手	23	65.7%	12	34.3%	35	100.0%
股関節	10	21.3%	37	78.7%	47	100.0%
膝関節	62	63.9%	35	36.1%	97	100.0%
足	21	55.3%	17	44.7%	38	100.0%
骨折	58	63.0%	34	37.0%	92	100.0%
全体	309	61.8%	191	38.2%	500	100.0%

(2) 回答者の年齢階級

回答者の年齢階級は、全体で見ると、「60歳代」が24.4%（122件）と最も多く、次いで「50歳代」が24.0%（120件）、「30歳代」が18.2%（91件）、「20歳代」が17.0%（85件）、「40歳代」が16.4%（82件）である。

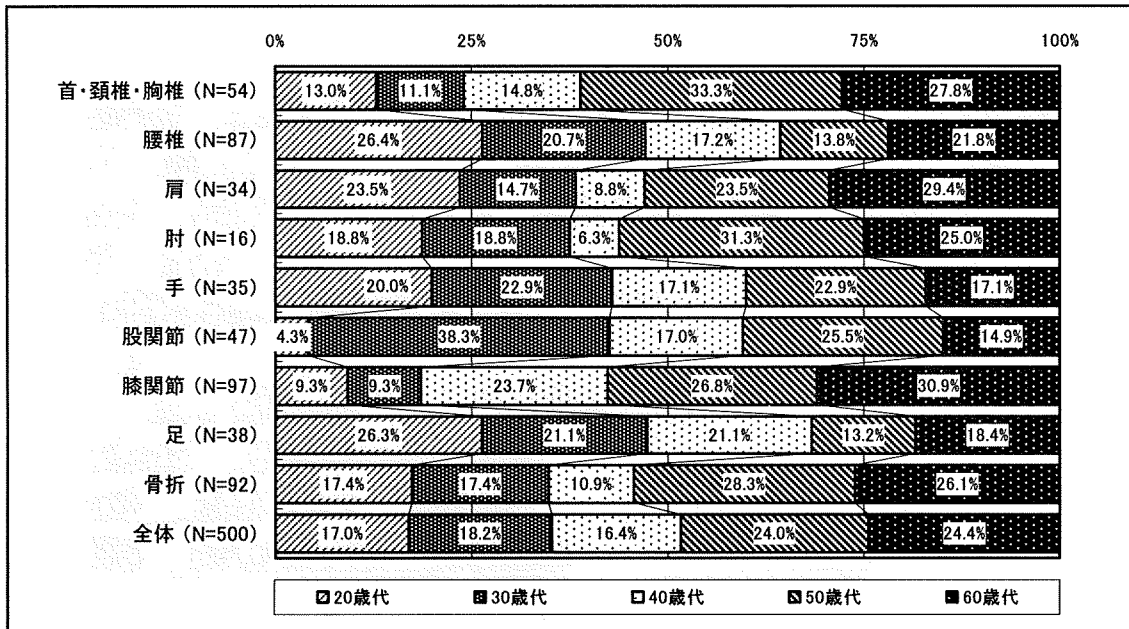


図3.3-2 回答者の年齢階級

表3.3-4 回答者の年齢階級

疾患部位	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	全体
首・頸椎・胸椎	13.0%	11.1%	14.8%	33.3%	27.8%	100.0%
	7	6	8	18	15	54
腰椎	26.4%	20.7%	17.2%	13.8%	21.8%	100.0%
	23	18	15	12	19	87
肩	23.5%	14.7%	8.8%	23.5%	29.4%	100.0%
	8	5	3	8	10	34
肘	18.8%	18.8%	6.3%	31.3%	25.0%	100.0%
	3	3	1	5	4	16
手	20.0%	22.9%	17.1%	22.9%	17.1%	100.0%
	7	8	6	8	6	35
股関節	4.3%	38.3%	17.0%	25.5%	14.9%	100.0%
	2	18	8	12	7	47
膝関節	9.3%	9.3%	23.7%	26.8%	30.9%	100.0%
	9	9	23	26	30	97
足	26.3%	21.1%	21.1%	13.2%	18.4%	100.0%
	10	8	8	5	7	38
骨折	17.4%	17.4%	10.9%	28.3%	26.1%	100.0%
	16	16	10	26	24	92
全体	17.0%	18.2%	16.4%	24.0%	24.4%	100.0%
	85	91	82	120	122	500

(3) 回答者が受けた手術の種類

回答者が受けた手術の種類は、全体で見ると、「小さな傷の手術（内視鏡）」が41.2%（206件）と最も多く、次いで「大きな傷の手術」が38.4%（192件）、「小さな傷の手術（その他）」が20.4%（102件）である。

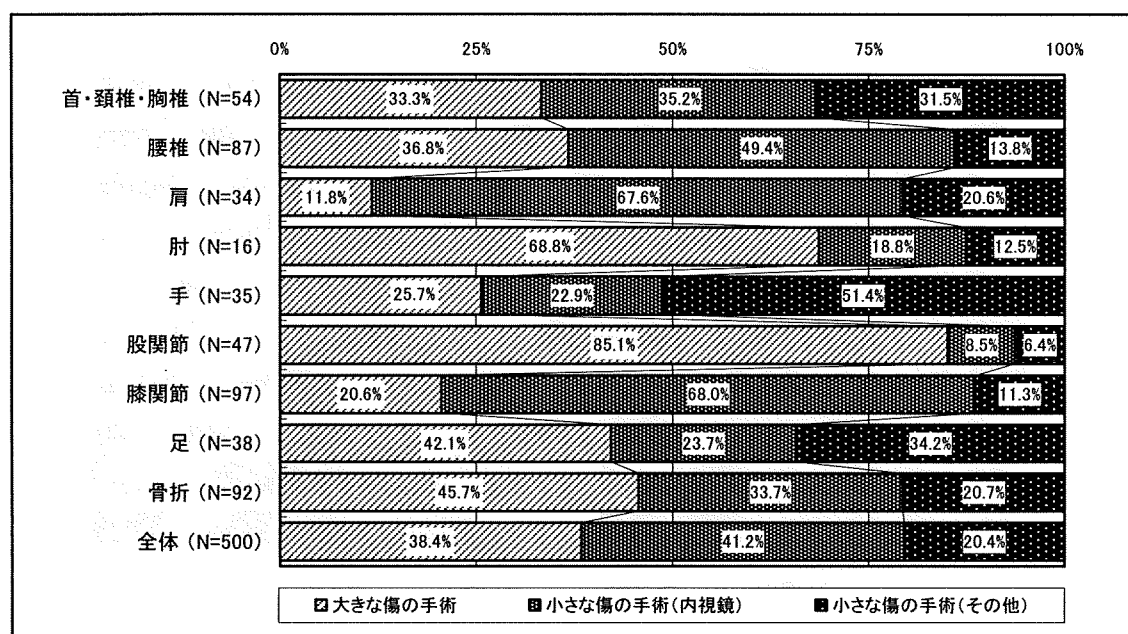


図3.3-3 回答者が受けた手術の種類

表3.3-5 回答者が受けた手術の種類

疾患部位	大きな傷の手術		小さな傷の手術				全体	
	件数	割合	内視鏡		その他		件数	割合
			件数	割合	件数	割合		
首・頸椎・胸椎	18	33.3%	19	35.2%	17	31.5%	54	100.0%
腰椎	32	36.8%	43	49.4%	12	13.8%	87	100.0%
肩	4	11.8%	23	67.6%	7	20.6%	34	100.0%
肘	11	68.8%	3	18.8%	2	12.5%	16	100.0%
手	9	25.7%	8	22.9%	18	51.4%	35	100.0%
股関節	40	85.1%	4	8.5%	3	6.4%	47	100.0%
膝関節	20	20.6%	66	68.0%	11	11.3%	97	100.0%
足	16	42.1%	9	23.7%	13	34.2%	38	100.0%
骨折	42	45.7%	31	33.7%	19	20.7%	92	100.0%
全体	192	38.4%	206	41.2%	102	20.4%	500	100.0%

表3.3-6 小さな傷の手術（その他）

区 分	コメント
首・頸椎・胸椎	<ul style="list-style-type: none"> ・ MRIで調べた ・ カイロプラクティック ・ カイロプラクティック・鍼 ・ ブラッドパッチ ・ ブロック治療 ・ マッサージ ・ 湿布した ・ 頸椎牽引 ・ 頸椎椎間板ヘルニア ・ 頸椎の変形による痛みとしびれの治療 ・ 硬膜外ブロック ・ 首の牽引 ・ 傷は小さいけど手術は大手術 ・ 接骨院で治療 ・ 電気治療、リハビリ、投薬 ・ 電気治療を行なった ・ 投薬と物理療法
腰 椎	<ul style="list-style-type: none"> ・ MRI ・ MRIの検査 ・ MRI検査、電気マッサージ、レントゲン ・ コルセット ・ ブロック注射 ・ ヘルニアのため、レーザー手術 ・ マッサージ ・ 温熱治療 ・ 神経ブロック ・ 神経ブロック注射 ・ 接骨院での治療 ・ 椎間板ヘルニア
肩	<ul style="list-style-type: none"> ・ オプティカルセンサー治療 ・ レントゲンと湿布薬 ・ 肩 ・ 肩鍵盤断裂 ・ 鎖骨骨折(肩の付け根) ・ 整骨院で治療した ・ 電気治療
肘	<ul style="list-style-type: none"> ・ ガングリオンをつぶした ・ 神経の移動
手	<ul style="list-style-type: none"> ・ かつ膜除去 ・ ガングリオン ・ シップ処置 ・ テーピング治療 ・ ばね指 ・ ヘバーデン結節 ・ 抗生物質の投与 ・ 指先を縫う ・ 湿布薬 ・ ガングリオンが大きくなり過ぎ切開手術を受けた ・ 手首の痛み ・ 手首の裂傷で、親指の腱の切断を繋ぐ手術 ・ 親指の筋が切れたので、位置を戻して、ギプスで固定 ・ 靭帯切除 ・ 包丁で切った ・ 縫合 ・ 縫合手術
股関節	<ul style="list-style-type: none"> ・ MIS ・ MIS手術 ・ 傷というか、内部の手術
膝関節	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヒyalロン注射 ・ 間接穿刺 ・ 血を抜いた ・ 血を抜く手術 ・ 骨の除去 ・ 治療 ・ 甲十字靭帯断裂で手術できず、リハビリ療法 ・ 神経ブロック注射 ・ 大腿部の筋力増強 ・ 電気・マッサージ ・ 内視鏡
足	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2針縫った ・ アキレス腱部分断裂 ・ シップ ・ 外傷による縫合 ・ 腫瘍摘出 ・ 傷口の縫い合わせ ・ 靭帯は損 ・ 切除 ・ 足の甲に2箇所ヒビが入った ・ 足首靭帯損傷 ・ 爪が指に食い込んで化膿したので切開 ・ 爪の切除 ・ 変形性関節症
骨 折	<ul style="list-style-type: none"> ・ ギプス ・ ギプスをする ・ ギプス固定 ・ 肩から上腕骨骨折部固定の金属挿入 ・ 固定のみ ・ 骨セメント形成術 ・ 骨をビスで繋ぐ為の手術を受けた ・ 骨片切除 ・ 手の甲 ・ 手の甲の骨折をしたので中指を牽引し金属の添え木をギプスで固定した ・ 小骨の固定 ・ 接骨 ・ 足指の骨折 ・ 大腿骨骨折部分の接合 ・ 添え木をした ・ 縫合 ・ 肋骨のひび治療

(4) 回答者の通院状況

回答者の現在の通院状況は、全体で見ると、「現在治療のために通院している」が 33.8% (169 件)、「現在治療のために通院していない」が 66.2% (331 件) である。

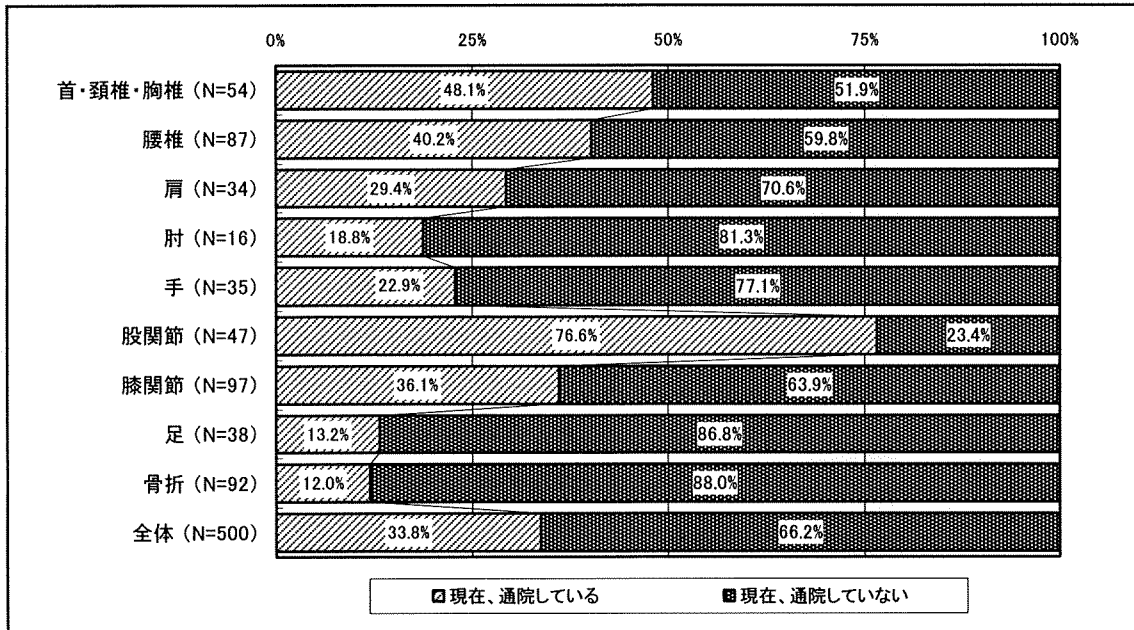


図3.3-4 回答者の通院状況

表3.3-7 回答者の通院状況

疾患部位	現在治療のために通院している		現在治療のために通院していない		全体	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
首・頸椎・胸椎	26	48.1%	28	51.9%	54	100.0%
腰椎	35	40.2%	52	59.8%	87	100.0%
肩	10	29.4%	24	70.6%	34	100.0%
肘	3	18.8%	13	81.3%	16	100.0%
手	8	22.9%	27	77.1%	35	100.0%
股関節	36	76.6%	11	23.4%	47	100.0%
膝関節	35	36.1%	62	63.9%	97	100.0%
足	5	13.2%	33	86.8%	38	100.0%
骨折	11	12.0%	81	88.0%	92	100.0%
全体	169	33.8%	331	66.2%	500	100.0%

3.3.2.2. 検査・診断

(1) 検査・診断時の不安・不快

「検査・診断時に不安・不快を感じた」回答者の割合は、全体でみると、「検査・診断時になんらかの不安・不快を感じた」が59.6% (298件) と最も多く、次いで「不安・不快は感じなかった (意識はあった)」が28.8 (144件)、「不安・不快は感じなかった (意識はなかった)」が11.6% (58件) である。

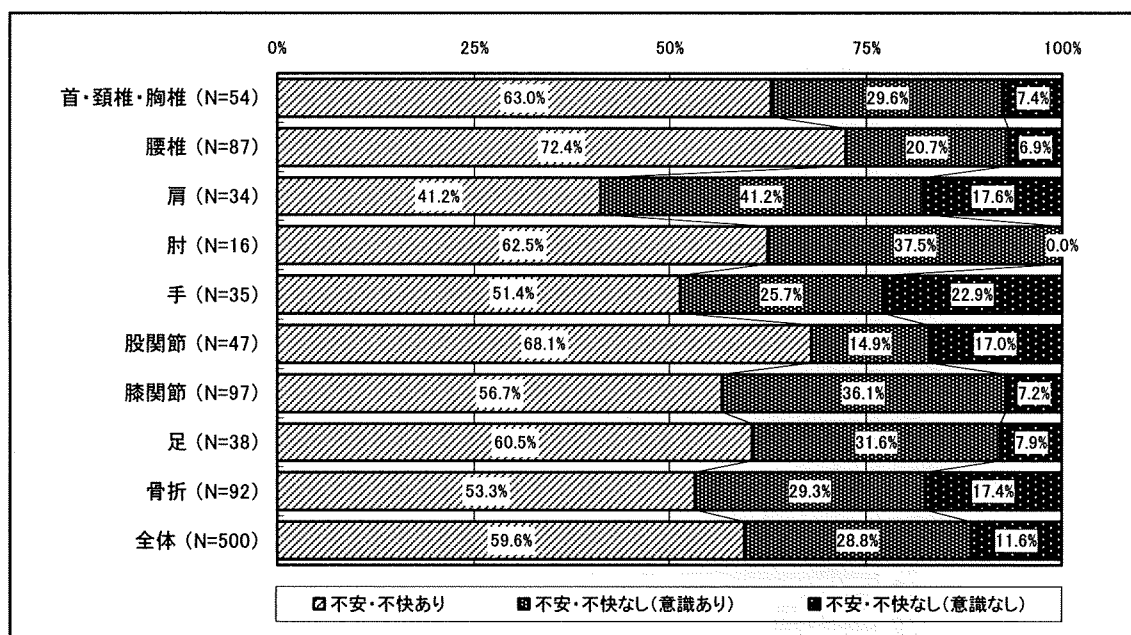


図3.3-5 検査・診断時の不安・不快

表3.3-8 検査・診断時の不安・不快

疾患部位	なんらかの不安・不快を感じた		不安・不快は感じなかった				全体	
	件数	割合	意識はあった		意識はなかった		件数	割合
			件数	割合	件数	割合		
首・頸椎・胸椎	34	63.0%	16	29.6%	4	7.4%	54	100.0%
腰椎	63	72.4%	18	20.7%	6	6.9%	87	100.0%
肩	14	41.2%	14	41.2%	6	17.6%	34	100.0%
肘	10	62.5%	6	37.5%	0	0.0%	16	100.0%
手	18	51.4%	9	25.7%	8	22.9%	35	100.0%
股関節	32	68.1%	7	14.9%	8	17.0%	47	100.0%
膝関節	55	56.7%	35	36.1%	7	7.2%	97	100.0%
足	23	60.5%	12	31.6%	3	7.9%	38	100.0%
骨折	49	53.3%	27	29.3%	16	17.4%	92	100.0%
全体	298	59.6%	144	28.8%	58	11.6%	500	100.0%

(2) 検査・診断時の不安・不快の内容

「検査・診断時の不安・不快の内容」は、以下のとおりであった。

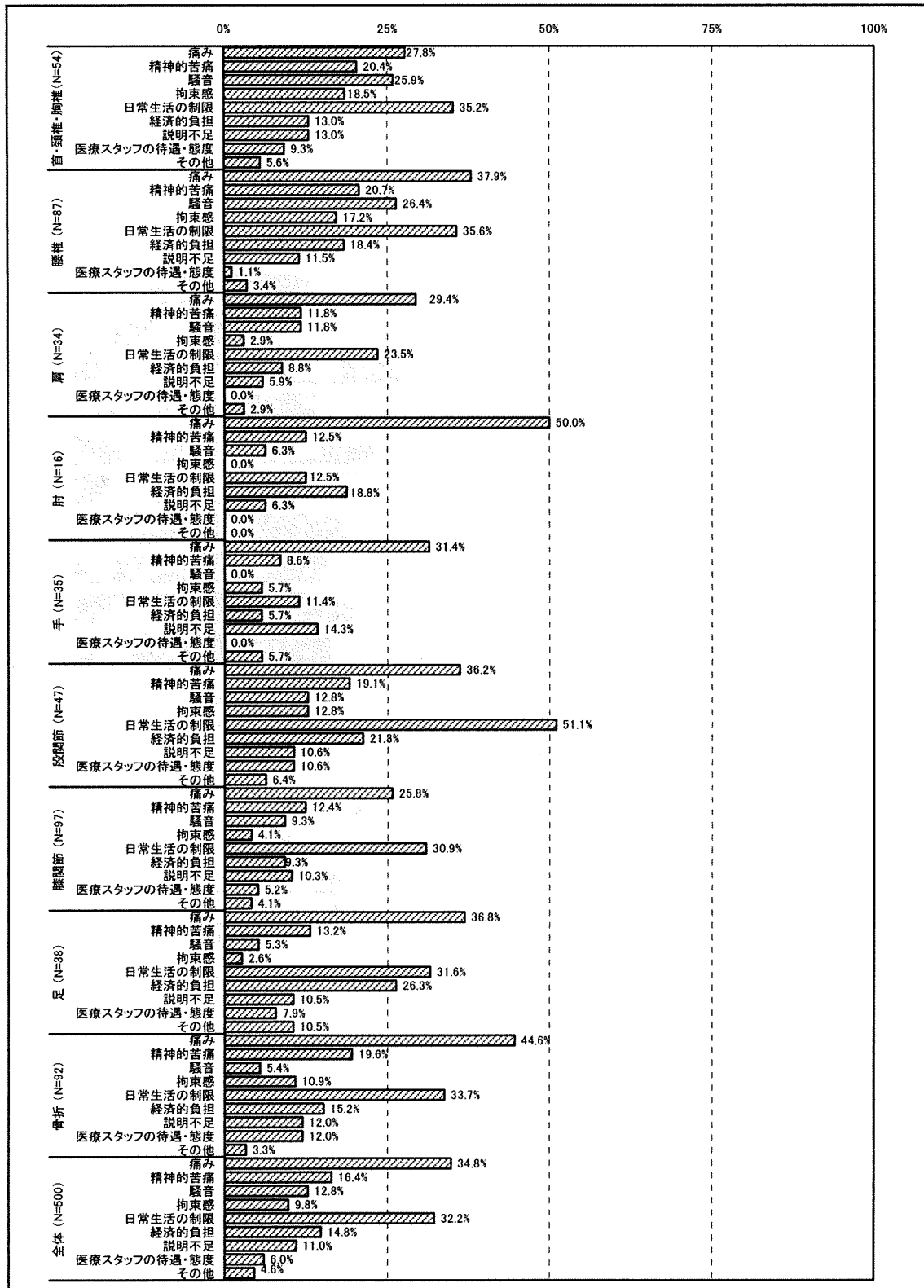


図3.3-6 検査・診断時の不安・不快の内容

表3.3-9 検査・診断時の不安・不快の内容（1/2）

疾患部位	不安・不快の内容	不安・不快を感じた	
		件数	割合
首・頸椎・ 胸椎 (N=54)	検査・診断を受けたときに痛みがともなった	15	27.8%
	検査・診断を受けたときに心理的圧迫感など精神的苦痛がともなった	11	20.4%
	検査・診断を受けたときに騒音が気になった（MR I 撮影など）	14	25.9%
	検査・診断を受けたときに検査室内で長時間拘束された	10	18.5%
	検査・診断を受けるために日常生活が制限された（手術・処置のために数日間入院したなど）	19	35.2%
	検査・診断を受けるための費用が想定していたよりも高かった	7	13.0%
	検査・診断について、医師の説明が不十分だった	7	13.0%
	検査・診断に関わる医療スタッフの態度が不快だった	5	9.3%
	その他の不安・不快	3	5.6%
腰 椎 (N=87)	検査・診断を受けたときに痛みがともなった	33	37.9%
	検査・診断を受けたときに心理的圧迫感など精神的苦痛がともなった	18	20.7%
	検査・診断を受けたときに騒音が気になった（MR I 撮影など）	23	26.4%
	検査・診断を受けたときに検査室内で長時間拘束された	15	17.2%
	検査・診断を受けるために日常生活が制限された（手術・処置のために数日間入院したなど）	31	35.6%
	検査・診断を受けるための費用が想定していたよりも高かった	16	18.4%
	検査・診断について、医師の説明が不十分だった	10	11.5%
	検査・診断に関わる医療スタッフの態度が不快だった	1	1.1%
	その他の不安・不快	3	3.4%
肩 (N=34)	検査・診断を受けたときに痛みがともなった	10	29.4%
	検査・診断を受けたときに心理的圧迫感など精神的苦痛がともなった	4	11.8%
	検査・診断を受けたときに騒音が気になった（MR I 撮影など）	4	11.8%
	検査・診断を受けたときに検査室内で長時間拘束された	1	2.9%
	検査・診断を受けるために日常生活が制限された（手術・処置のために数日間入院したなど）	8	23.5%
	検査・診断を受けるための費用が想定していたよりも高かった	3	8.8%
	検査・診断について、医師の説明が不十分だった	2	5.9%
	検査・診断に関わる医療スタッフの態度が不快だった	0	0.0%
	その他の不安・不快	1	2.9%
肘 (N=16)	検査・診断を受けたときに痛みがともなった	8	50.0%
	検査・診断を受けたときに心理的圧迫感など精神的苦痛がともなった	2	12.5%
	検査・診断を受けたときに騒音が気になった（MR I 撮影など）	1	6.3%
	検査・診断を受けたときに検査室内で長時間拘束された	0	0.0%
	検査・診断を受けるために日常生活が制限された（手術・処置のために数日間入院したなど）	2	12.5%
	検査・診断を受けるための費用が想定していたよりも高かった	3	18.8%
	検査・診断について、医師の説明が不十分だった	1	6.3%
	検査・診断に関わる医療スタッフの態度が不快だった	0	0.0%
	その他の不安・不快	0	0.0%
手 (N=35)	検査・診断を受けたときに痛みがともなった	11	31.4%
	検査・診断を受けたときに心理的圧迫感など精神的苦痛がともなった	3	8.6%
	検査・診断を受けたときに騒音が気になった（MR I 撮影など）	0	0.0%
	検査・診断を受けたときに検査室内で長時間拘束された	2	5.7%
	検査・診断を受けるために日常生活が制限された（手術・処置のために数日間入院したなど）	4	11.4%
	検査・診断を受けるための費用が想定していたよりも高かった	2	5.7%
	検査・診断について、医師の説明が不十分だった	5	14.3%
	検査・診断に関わる医療スタッフの態度が不快だった	0	0.0%
	その他の不安・不快	2	5.7%

表3.3-10 検査・診断時の不安・不快の内容（2/2）

疾患部位	不安・不快の内容	不安・不快を感じた	
		件数	割合
股関節 (N=47)	検査・診断を受けたときに痛みがともなった	17	36.2%
	検査・診断を受けたときに心理的圧迫感など精神的苦痛がともなった	9	19.1%
	検査・診断を受けたときに騒音が気になった（MR I撮影など）	6	12.8%
	検査・診断を受けたときに検査室内で長時間拘束された	6	12.8%
	検査・診断を受けるために日常生活が制限された（手術・処置のために数日間入院したなど）	24	51.1%
	検査・診断を受けるための費用が想定していたよりも高かった	10	21.3%
	検査・診断について、医師の説明が不十分だった	5	10.6%
	検査・診断に関わる医療スタッフの態度が不快だった	5	10.6%
	その他の不安・不快	3	6.4%
膝関節 (N=97)	検査・診断を受けたときに痛みがともなった	25	25.8%
	検査・診断を受けたときに心理的圧迫感など精神的苦痛がともなった	12	12.4%
	検査・診断を受けたときに騒音が気になった（MR I撮影など）	9	9.3%
	検査・診断を受けたときに検査室内で長時間拘束された	4	4.1%
	検査・診断を受けるために日常生活が制限された（手術・処置のために数日間入院したなど）	30	30.9%
	検査・診断を受けるための費用が想定していたよりも高かった	9	9.3%
	検査・診断について、医師の説明が不十分だった	10	10.3%
	検査・診断に関わる医療スタッフの態度が不快だった	5	5.2%
	その他の不安・不快	4	4.1%
足 (N=38)	検査・診断を受けたときに痛みがともなった	14	36.8%
	検査・診断を受けたときに心理的圧迫感など精神的苦痛がともなった	5	13.2%
	検査・診断を受けたときに騒音が気になった（MR I撮影など）	2	5.3%
	検査・診断を受けたときに検査室内で長時間拘束された	1	2.6%
	検査・診断を受けるために日常生活が制限された（手術・処置のために数日間入院したなど）	12	31.6%
	検査・診断を受けるための費用が想定していたよりも高かった	10	26.3%
	検査・診断について、医師の説明が不十分だった	4	10.5%
	検査・診断に関わる医療スタッフの態度が不快だった	3	7.9%
	その他の不安・不快	4	10.5%
骨折 (N=92)	検査・診断を受けたときに痛みがともなった	41	44.6%
	検査・診断を受けたときに心理的圧迫感など精神的苦痛がともなった	18	19.6%
	検査・診断を受けたときに騒音が気になった（MR I撮影など）	5	5.4%
	検査・診断を受けたときに検査室内で長時間拘束された	10	10.9%
	検査・診断を受けるために日常生活が制限された（手術・処置のために数日間入院したなど）	31	33.7%
	検査・診断を受けるための費用が想定していたよりも高かった	14	15.2%
	検査・診断について、医師の説明が不十分だった	11	12.0%
	検査・診断に関わる医療スタッフの態度が不快だった	11	12.0%
	その他の不安・不快	3	3.3%
全体 (N=500)	検査・診断を受けたときに痛みがともなった	174	34.8%
	検査・診断を受けたときに心理的圧迫感など精神的苦痛がともなった	82	16.4%
	検査・診断を受けたときに騒音が気になった（MR I撮影など）	64	12.8%
	検査・診断を受けたときに検査室内で長時間拘束された	49	9.8%
	検査・診断を受けるために日常生活が制限された（手術・処置のために数日間入院したなど）	161	32.2%
	検査・診断を受けるための費用が想定していたよりも高かった	74	14.8%
	検査・診断について、医師の説明が不十分だった	55	11.0%
	検査・診断に関わる医療スタッフの態度が不快だった	30	6.0%
	その他の不安・不快	23	4.6%

表3.3-11 その他の不安・不快（検査・診断時）

区分	コメント
首・頸椎・胸椎	<ul style="list-style-type: none"> ・ 傷が残るかどうか・顔の神経を傷つけないか(20 歳代女性) ・ 前例があまりないということ(60 歳代男性) ・ 東大病院など大きな病院へ行ったが、原因が分からず、結局近所の小さなクリニックで病名が判明した(40 歳代女性)
腰 椎	<ul style="list-style-type: none"> ・ ただの腰痛というだけで、真剣に検査してくれない病院もあった！(20 歳代女性) ・ 後遺症のこと(20 歳代男性) ・ 電気マッサージに効き目が感じられなかった(20 歳代女性)
肩	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長い間病名が分からなかったので(60 歳代女性)
肘	—
手	<ul style="list-style-type: none"> ・ 後遺症が心配だった(50 歳代女性) ・ 部屋が空いていないということで産科に入院した(30 歳代女性)
股関節	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大きな手術だった為、術後が心配だった(30 歳代男性) ・ 軟骨が磨り減っていないだろうかと不安だった(50 歳代女性) ・ 怖くて、逃げたかった(60 歳代女性)
膝関節	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検査をするに至るまでの時間が長い(30 歳代女性) ・ 術後の予想が分かっていなかった(60 歳代女性) ・ 入院中にリハビリの成果が上がらず不安だった(50 歳代女性) ・ 本当に治るのかどうか心配だった(50 歳代男性)
足	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヒビの自覚なく2週間後に判った(50 歳代女性) ・ 誤診だった(60 歳代女性) ・ 前の患者の容態が外の待合室に丸々聞こえた(30 歳代男性) ・ 注射がいたかった(40 歳代女性)
骨 折	<ul style="list-style-type: none"> ・ 局部麻酔から全身麻酔に変更(40 歳代男性) ・ 骨折が最初見逃され、二度の検査をした(50 歳代女性) ・ 手術の時に(50 歳代男性)

(3) 検査・診断時の不安・不快に関するコメント

1) 首・頸椎・胸椎

首・頸椎・胸椎の病気やケガにかかった患者が検査・診断時に感じた不安・不快に関するコメントは、以下のとおりである。

表3.3-12 検査・診断時の不安・不快に関するコメント（首・頸椎・胸椎）

区分	コメント
大きな傷の手術	<ul style="list-style-type: none"> ・ MRIの音が検査後も耳に残り不快だったし、太ももの動脈からカテーテルを入れて、造影剤を入れるときに気持ち悪かった(50歳代女性) ・ MRIの撮影中の音が大きく、狭いトンネルの中で圧迫感があった(50歳代男性) ・ MRIの騒音。痺れが治らないことに対する不安(60歳代女性) ・ MRI検査、骨髄造影剤注射(50歳代男性) ・ MRI検査段階で痛い姿勢で拘束された(60歳代男性) ・ どの程度悪いのか(60歳代男性) ・ 検査に時間がかかった(20歳代女性) ・ 原因の詳細(事故の状況)を一切聞かれなかった。痛みの場所や移動性(痛む場所がその時々によって違う)を否定された。いくら訴えても痛みとか辛さを理解してもらえなかった。最終的には「様子を見ましょう」としか言われない(40歳代男性) ・ 腰椎から造影剤を入れるために痛みを伴うことを聞いていたし、そのあと頭痛がくる可能性が強かったので、とても不安に思った。その後実際にひどい頭痛と嘔吐に苦しむことになってとても辛かった(30歳代女性) ・ 手術の順番待ちで数か月待たされたこと(40歳代男性) ・ 首が動かせない状態なのに、もっと後ろに動かすよう強く言われた。痙攣が起こったら「ふざけているんですか?」と言われ、なんてことを言うのかと唾然としてしまった(60歳代男性) ・ 首に大きな傷は残るのかどうか不安だった(20歳代女性) ・ 神経が集中してる所だから、死ぬ場合もあることを間接的に言われた(50歳代女性) ・ 説明が十分されなかった(60歳代男性)
小さな傷の手術 (内視鏡)	<ul style="list-style-type: none"> ・ MRIの振動や音が大きくて心配になった(50歳代女性) ・ スタッフの対応が悪く不快だった(40歳代男性) ・ どうなるのかととても不安でしたが、お医者さんの説明が十分になされたことによって解消されました(50歳代女性) ・ 一部の看護師の態度が患者中心ではなく自分中心的な態度だった(30歳代男性) ・ 牽引に対する不安(50歳代男性) ・ 後遺障害(60歳代男性) ・ 首から肩にかけての激痛で、何度も救急車で運ばれたが、全く原因が分からず、あちこちの病院に行くはめになり、結局近所の小さなクリニックで「頸椎椎間板ヘルニア」と断定。普通、整形外科の医者なら、こんなことはすぐに分かるはずだと、そのクリニックの医師は言っていましたので、もっと早く分かっていたら、こんなに苦しまずに済んだかと思うと、悔しい思いで一杯です(40歳代女性) ・ 大きな手術を決めるとき完治は難しいといわれたこと(50歳代男性) ・ 痛みが取れるのか(60歳代女性) ・ 痛みの激しさがなかなか伝わらず、数箇所の病院を回ってやっと最後の病院で手術に踏み切ってくれた(30歳代男性) ・ 不具合が発生する可能性もほんの少しだけでもあると言われたこと(60歳代男性)
小さな傷の手術 (その他)	<ul style="list-style-type: none"> ・ このまま手足が麻痺してしまうかと不安を感じた(60歳代男性) ・ もう治らないのでは・・・という不安。また、レントゲン等では確認できないので、見放す医師が多かった(20歳代男性) ・ リスクの説明で、命に関わると言う事を聞き、手術がうまく行くのか不安になった(50歳代女性) ・ 医者の態度が、「気に入らないなら、他に行け」と言わんばかりの高飛車な態度だった(50歳代男性) ・ 検査によって出る結果に対する不安(30歳代男性) ・ 治療に対する説明がはっきりしなかった。採血し糖尿の検査もしたが結果についての医師からの報告が無かった(治療に2ヶ月ほど通院した)(60歳代男性) ・ 初めてのMRI検査だったので緊張して不安になった(60歳代男性) ・ 脊髄に造影剤を入れるため、リスクを感じた(30歳代男性) ・ 痛みが2週間とれない状態だったのでペインクリニック科に入院して麻酔処置をしたが痛みが取れなかった(40歳代女性)

2) 腰椎

腰椎の病気やケガにかかった患者が検査・診断時に感じた不安・不快に関するコメントは、以下のとおりである。

表3.3-13 検査・診断時の不安・不快に関するコメント（腰椎）（1/2）

区分	コメント
大きな傷の手術	<ul style="list-style-type: none"> ・ どのような姿勢をとっても、強い鈍痛があった(60 歳代男性) ・ 何ヶ所も診察を受けたが、話は聞かない、傲慢な態度などの医者がいた(20 歳代男性) ・ 恐怖心(60 歳代女性) ・ 苦痛を医師にうまく伝えることができなかった点(20 歳代男性) ・ 具体的な検査時間等(かかる時間)が分からず不安に感じた。MRI時の狭く中が蒸し暑く感じた(20 歳代女性) ・ 検査がいくつもあり、数日間検査のために通院しなければならなかった(40 歳代男性) ・ 検査の多さ(60 歳代女性) ・ 原因がわからない為検査をすればわかるというので検査を受けたがわからなかった。看板だけはこー一流だと思ったがまったく無意味だった(60 歳代男性) ・ 腰は大切なところだから治るのかわからなかった(20 歳代男性) ・ 腰椎レントゲン撮影時の、ぞうえい剤注射に激痛があった。検査入院で、5日くらい入院した(30 歳代男性) ・ 自立できない期間が長い(50 歳代男性) ・ 手術後の生活が、心配でした(50 歳代女性) ・ 将来の不安(20 歳代男性) ・ 将来を考えたとき怖かった。ブロック注射が痛くて不安だった(40 歳代男性) ・ 前かがみができない(20 歳代男性) ・ 全身麻酔そのもの、およびこの麻酔を要する手術ということ、に関する不安など(50 歳代男性) ・ 担当医ではなく若い医者が脊髄に注射を試みたが3度も失敗をし激痛があった。本手術の時も若い医者がする可能性があり、手術が成功するか不安になった(60 歳代男性) ・ 椎間板ヘルニアの診断の際に足を曲げたり等、患部に痛みを感じたり脊椎造影の際に使用した造影剤の影響で頭痛を感じた(60 歳代男性) ・ 入院するのが億劫だった(20 歳代男性) ・ 本当に、足先までの激痛やしびれが治まるのかどうか不安でした(50 歳代男性) ・ 本当に治るのか(30 歳代女性) ・ 本当に治るのだろうか？？(20 歳代男性)
小さな傷の手術 (内視鏡)	<ul style="list-style-type: none"> ・ この手術で本当に直るのか？痛みは我慢出来る程度で済むか？(50 歳代男性) ・ ご飯がまずかった(40 歳代女性) ・ どこまで悪いのか、よくなるのが不安であった。MRI検査では、狭い空間にいるので、圧迫感を感じた(20 歳代男性) ・ ヘルニアの手術の成功率も決して高くは無いので、足の先に電流が走ったような感覚があったときは、もしかしたらもう歩けないのかも…と怖くなった(30 歳代女性) ・ 暗くて狭いので閉塞感があった(50 歳代男性) ・ 医師の説明が少なく時間的に不明な点が教えてもらえなかった(60 歳代男性) ・ 医者への態度言動(20 歳代男性) ・ 何をされるのかわからない(30 歳代女性) ・ 果たして良くなるのかという不安(40 歳代男性) ・ 改善して以前のように、生活できるか不安でした(60 歳代男性) ・ 金額(40 歳代男性) ・ 検査に時間がかかった事(30 歳代女性) ・ 見えない部分だけに正確な診断をしてもらえるかどうか不安に感じた(20 歳代女性) ・ 今まで受けたことがない検査をすることの怖さ、また元のように痛みが取れて元気になれるのかという不安(40 歳代女性) ・ 今後、日常生活が送れなくなるのではないのかという不安(20 歳代男性) ・ 細かく説明してほしいかった(30 歳代男性) ・ 思っていたよりも時間がかかり、価格も高かった(40 歳代女性) ・ 自分が診察台で何をされるのかとても不安だった。実際、手をかける人と外野のスタッフが多く不安だった(30 歳代女性) ・ 心理的恐怖感(60 歳代男性)

表3.3-14 検査・診断時の不安・不快に関するコメント（腰椎）（2／2）

区 分	コメント
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体を動かせばちゃんと診断画像が撮影できないと、検査技師におどかされたため(50 歳代男性) ・ 大きな障害の説明(60 歳代男性) ・ 長時間イスに座って待たされた(20 歳代女性) ・ 直るかどうか(50 歳代男性) ・ 痛みが消えるのかについて(30 歳代男性) ・ 半身不随になってしまうかもしれないという不安(40 歳代男性) ・ 病院側にとってはありふれた事態なんだろうけど、当の患者にしてみればはじめての事。精神的に不安な気持ちにならないような配慮が欲しいと思っているのに、案外と事務的な対応が多くて不快に感じた(50 歳代男性) ・ 本当によくなって歩けるようになるか不安だった(40 歳代女性) ・ 麻痺(60 歳代女性)
<p>小さな傷の手術 (その他)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ MRIが時間が長い、うるさい。動けない(30 歳代男性) ・ MRI検査時にガウンのようなものに着替えたが、検査室内が寒かった。検査中にガンガンと騒音がしてとても恐怖感があつた(20 歳代女性) ・ いつまでたっても治らない(50 歳代女性) ・ レントゲンなど時間がかかった(40 歳代女性) ・ 医師が研修医で最悪だった(30 歳代女性) ・ 検査時間が限定され、仕事との調整に苦勞した(40 歳代男性) ・ 原因究明するのに採血からCTスキャン、MRIなど多くの検査や時間を要したこと(30 歳代男性) ・ 動けないほどの痛みだったが事前の詳しい説明がなく、とても不安だった(30 歳代女性) ・ 歩けないほど痛いのに「ただの腰痛」「疲れです」と言われ検査もしてくれなかった。3つ目の病院で初めて「こんなに酷くなるまで、放っておいたんですか」と言われ、MRIで検査し、数日後に手術。最初の病院で、触診や検査をして欲しかった(20 歳代女性)

3) 肩

肩の病気やケガにかかった患者が検査・診断時に感じた不安・不快に関するコメントは、以下のとおりである。

表3.3-15 検査・診断時の不安・不快に関するコメント（肩）

区分	コメント
大きな傷の手術	<ul style="list-style-type: none"> ・ MRIの音や閉塞感が苦痛だった(50 歳代男性) ・ 救急診療だったせいか、電話で上司と思しき医師に相談しながらの処置をされて不安だった。その後、その上司らしき医師が来て続きの処置をされたが酒気を帯びているように見られ更に不安になった(30 歳代男性) ・ 本当に治るかどうか(50 歳代男性)
小さな傷の手術 (内視鏡)	<ul style="list-style-type: none"> ・ MRIで声が届かなかった(20 歳代女性) ・ MRI検査で時間が長く感じた(60 歳代男性) ・ リハビリ計画がなかった。手術の詳しい内容について説明がなかった(30 歳代男性) ・ 筋肉撮影のため注射が非常に痛かった(60 歳代男性) ・ 肩の痛みが残っている。腱板断裂縫合手術後の痛みが激しい。昨年右肩、今年左肩の手術をしたが、左肩はものすごい痛みが有る。再断裂している(50 歳代男性) ・ 動いてはいけないのが苦痛だった。実際に肩と腕が痛かったので(60 歳代女性) ・ 腕が早く普通に動くようになるのか?(60 歳代男性)
小さな傷の手術 (その他)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 根本的な症状がわからない(60 歳代男性) ・ 最初の病院で50 肩の治療ばかり受け9ヶ月も分からないままTVの番組を見て～これはおかしいと思い紹介状をもらい大きな病院で診察を受け病名が分かり手術を受けた。やはり個人医院では、あかんのかと思った(60 歳代女性) ・ 施術中の会話で、日常のことを根掘り葉掘り聞かれ少し苦痛だった。会話を盛り上げようとしてくれているようでしたが…(20 歳代女性)

4) 肘

肘の病気やケガにかかった患者が検査・診断時に感じた不安・不快に関するコメントは、以下のとおりである。

表3.3-16 検査・診断時の不安・不快に関するコメント（肘）

区分	コメント
大きな傷の手術	<ul style="list-style-type: none"> ・ ケロイド体質なので、傷跡が気になる(30 歳代男性) ・ 関節の痛み(50 歳代男性) ・ 昔肘の骨が欠けて取って、しばらくして同じ処がまた欠けて、次はもっとひどくなるのではないかと不安になった(30 歳代男性) ・ 痛いのにいろんな角度に曲げられた(20 歳代女性) ・ 肘を骨折して近所の整形外科にかかり 10 日も経つと此方では手術出来ませんと云われ、この肘はどうなるのかと思いましたがそのままギブスのまま日が経ち今でも時々痛みが走ります、やぶ医者でした(60 歳代女性) ・ 本当に手術を受けて直るのか?という不安感があった(40 歳代男性) ・ 利き腕が使用できなくなったので何を行うにも時間がかかりうまくいかないのでもらいらした(20 歳代男性)
小さな傷の手術 (内視鏡)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 神経の痛み(60 歳代男性) ・ 清潔か、どうか(50 歳代男性) ・ 痛かった(60 歳代男性)
小さな傷の手術 (その他)	—